

令和7年度 東御市美術品取得審査委員会
次第

日時：令和8年3月3日（火）

午前11時から

場所：本庁舎2階 第三委員会室

- 1 開会

- 2 委員長あいさつ

- 3 審議事項
 - (1) 令和7年度梅野記念絵画館の美術品取得（案）

 - (2) 令和7年度丸山晚霞記念館の美術品取得（案）

- 4 具申

- 5 その他

- 6 閉会

(1)令和7年度梅野記念絵画館の美術品取得(案)

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質		サイズ
1	五百住乙人	母と子	不明	油彩	キャンバス	91.0×72.7

寄贈



【佐野悠斗 梅野記念絵画館(学芸員) 説明】

1925年(大正14年)に東京小石川で生まれた五百住乙人は、1956年の第8回立軌展(日本橋三越本店)をはじめ、立軌会の同人として長年にわたり活躍した独力の画家である。服部亮英、脇田和に絵を学び、画廊での個展や公募展への出品を通して作品発表を続けた。1998年には第13回小山敬三美術賞を受賞。また、翌年には美術文部省検定済教科書へ作品が掲載された。2023年没。享年97。

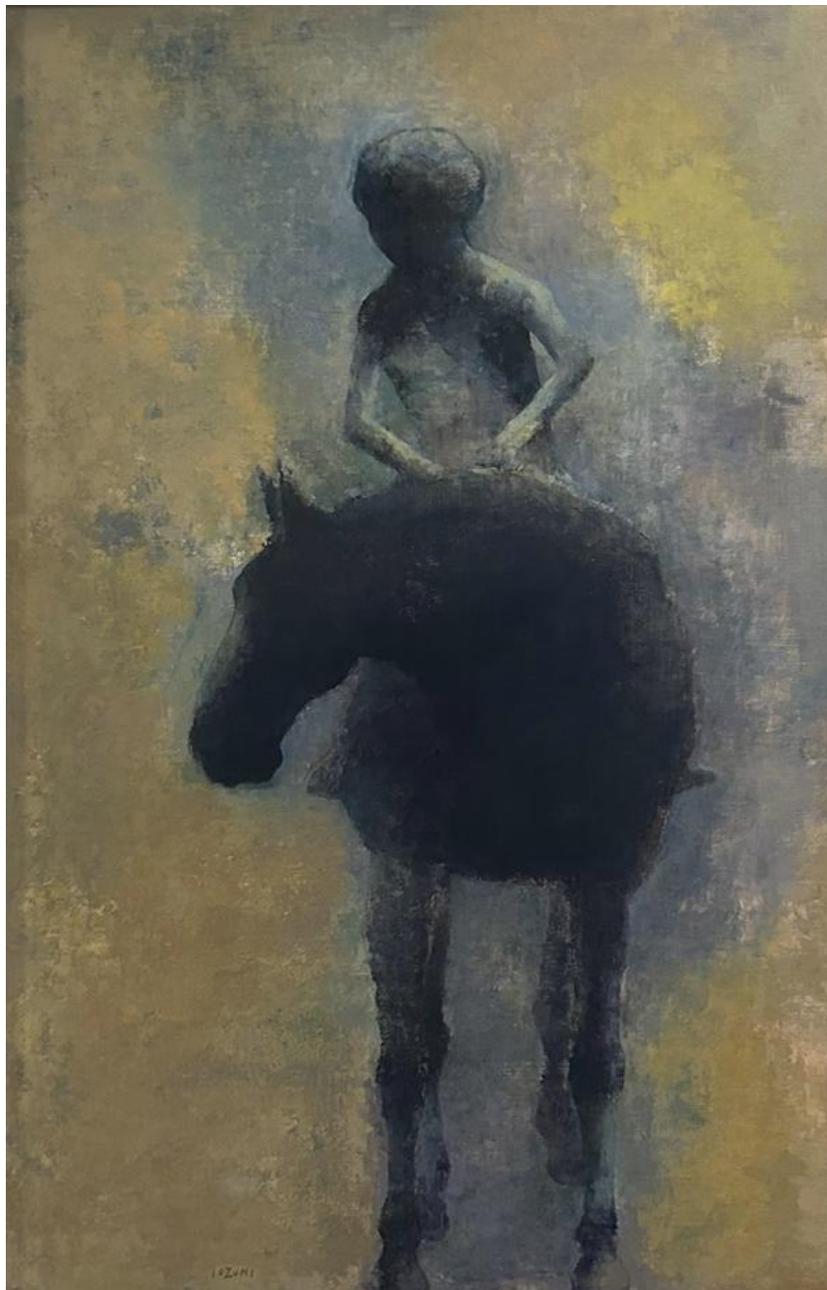
梅野記念絵画では2008年に、公立美術館では初となる個展「ザ・イオズミ・ワールド 時を超えた静寂 五百住乙人展」を開催。この展覧会の記録から、作品を当館に寄贈されたい旨遺族から申し出があった。日本の戦後洋画史において、立軌会を代表する画家であり、当館の所蔵とするに問題ない質を備えている。

なお画家自身の子どもを描いたという本作は、第75回立軌展(2022年)に出品されている。

(1)令和7年度梅野記念絵画館の美術品取得(案)

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質		サイズ
2	五百住乙人	馬と少年	1976年	油彩	キャンバス	116.7×72.7

寄贈



【佐野悠斗 梅野記念絵画館(学芸員) 説明】

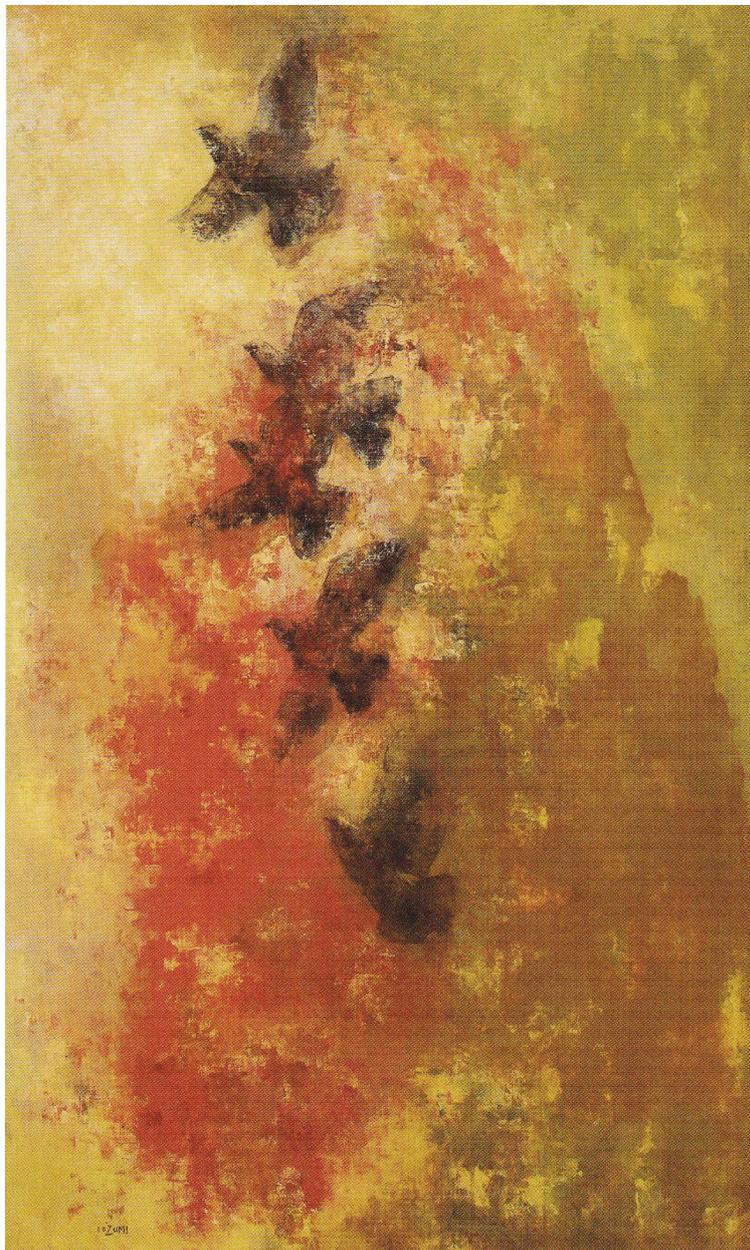
本作は黒馬に乗った朴訥とした少年が描かれている。馬は、果実や鳩とならび五百住の作品にしばしば登場するモチーフであるが、とりわけ本作はその姿を正面から描いており、その心象的な画面構成と題材から、画家の豊かな描写感覚の認められる作品といえる。

また、府中市美術館にも同じ題材である《馬と少年》が収蔵されるなど、五百住乙人は近現代洋画史上の一つの到達点を示す画家として、高まりを見せている。梅野記念絵画館では、五百住作品2点(《帽子の婦人》、《待つ人》)を所蔵しており、所蔵作品と合わせ、活用の可能性を大いに持つ作品である。1984年「五百住乙人油絵展」(日本橋三越)、2008年「ザ・イオズミ・ワールド 時を超えた静寂 五百住乙人展」(東御市梅野記念絵画館)に出品。

(1)令和7年度梅野記念絵画館の美術品取得(案)

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質		サイズ
3	五百住乙人	はばたく	1976年	油彩	キャンバス	145.5×89.4

寄贈



【佐野悠斗 梅野記念絵画館(学芸員) 説明】

本作および受贈候補作品《馬と少年》、《卓上の静物》は2008年の「ザ・イオズミ・ワールド 時を超えた静寂 五百住乙人展」(東御市梅野記念絵画館)にも出品歴があるが、梅野記念絵画館初代館長・梅野隆は展覧会の開催にあたって、「そこに漂う静謐感、虚勢のない真面目で正直な画風は、(中略)誰もが安らぎに似た感動を受けるであります。」と五百住乙人の表現力の高さを認めている。このことから、五百住作品の受贈は梅野の志を継承する当館の理念実現に大きく寄与すると考えられる。特に本作は、羽ばたく5羽の鳩の背景に華やかな暖色が用いられており、五百住作品の中でも比較的情動性のある作品であるため、当館所蔵の五百住の人物画と合わせ幅のある活用方法が見いだせる。

(1) 令和7年度梅野記念絵画館の美術品取得(案)

No.	作者名	作品名	制作年	技法・材質	サイズ
4	五百住乙人	桌上的果実	1988	油彩 キャンバス	91.0×72.7

寄贈



【佐野悠斗 梅野記念絵画館(学芸員) 説明】

五百住乙人は自身の身近にあったザクロを作品に繰り返し描いているが、本作は其中でも見下ろすような縦の構図をとり、絵画の中の三次元的な奥行きをうかがわせる。詩人の松永伍一が詩集「五百住乙人の詩趣」にて「桌上的果実」について、「柘榴が笑い出す様に割れました。秘密を隠しておきたかったのに、紅く熟れた粒たちがもう我慢できずに歌いだすので、ついつい外皮を脱いだのです。(抜粋)」と表現したように、熟れ落ちて割れた果実が象徴的に描かれた静物作品である。

1989年「五百住乙人油絵展」(日本橋三越)、2008年「ザ・イオズミ・ワールド 時を超えた静寂 五百住乙人展」(東御市梅野記念絵画館)に出品。

東御市梅野記念絵画館収蔵品収集方針

1 基本的な考え方

当館の収蔵品は、開館時に寄贈を受けた梅野隆のコレクション（以下、梅野コレクションという。）がベースになっている。梅野隆は、生涯を通じて「特異な業績を上げながら忘却されている作家や、不遇な生涯を終えた作家を再評価し、世に知らしめること」を信条にしていた。当館は、初代館長を務めた梅野隆の理念を継承し、運営している。

また、地域の公立美術館として、この地方にゆかりのある作家で、その存在を後世に伝えていく必要のある作家の作品を収蔵する。

2 収集対象

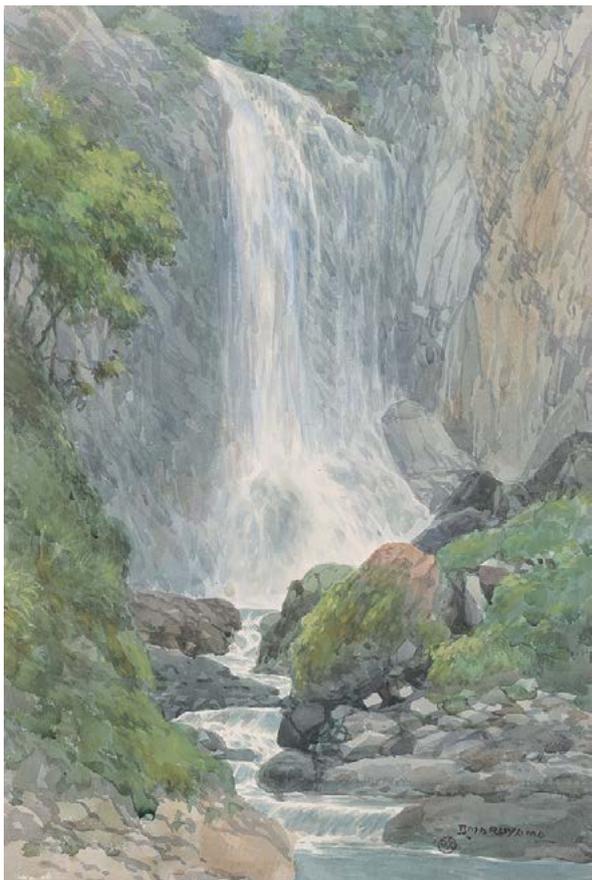
- (1) 原則として、収集対象を日本及び世界の近現代美術作品とする。
- (2) 梅野コレクションの作家の作品で、当該作家の芸術性を理解するうえで重要な作品、またはその全作品を通覧するうえで既存コレクションが欠落している時期の作品。
- (3) 上記理念に基づき開催した展覧会で対象とした作家で、その作家の芸術を語るうえで必要と思われる作品。
- (4) これまで展覧会は開催していないが、梅野隆の理念に沿う作家で、展覧会を開催する可能性のある作家、または残存する作品が少なく展覧会を開催できないが、貴重であり散逸の危険性を回避するために収集の必要性のある作家の作品。
- (5) 東御市が所在する長野県東信地方の美術史を語るうえで必要な作家で、美術館が収蔵するに相応しいレベルの作品。
- (6) 上記のいずれにも該当しないが、日本近代美術史に既にその存在が位置づけられている作家で、収蔵が相応しいと考える作品。

3 審査

上記の収集対象となった作品は、東御市総合交流促進施設（梅野記念絵画館・ふれあい館）運営委員会で審議され、了承されたうえで、東御市美術品取得審査委員会を経て収蔵が決定される。

(2) 令和7年度丸山晚霞記念館の美術品取得（案）

No.	作者	作品名	制作年	技法、材質	サイズ
1	丸山晚霞	苗名滝	1905年以降	水彩、紙	49.5*33.0



新潟県妙高市の苗名滝を描いた作品。善光寺門前にあった文具店「松花堂」店主の穂刈氏が旧蔵。穂刈氏が入院中、娘である所蔵者が看病したことへの感謝の印として譲渡された。「松花堂」は当時県内で唯一輸入絵具を扱っていたため丸山晚霞がよく訪れ、穂刈氏は支援者の一人であった。所蔵者の兄、穂刈公氏宅にも当時先代が入手した丸山晚霞作品が多く残っている。

本作は、平成25年開催の「水彩画家丸山晚霞展」に出展。今回は、所蔵者が高齢となり後継者もないことから寄贈申し出があった。

No.	作者	作品名	制作年	技法、材質	サイズ
2	丸山晚霞	鹿のいる風景	1905年以降	水彩、紙	34.5*51.0



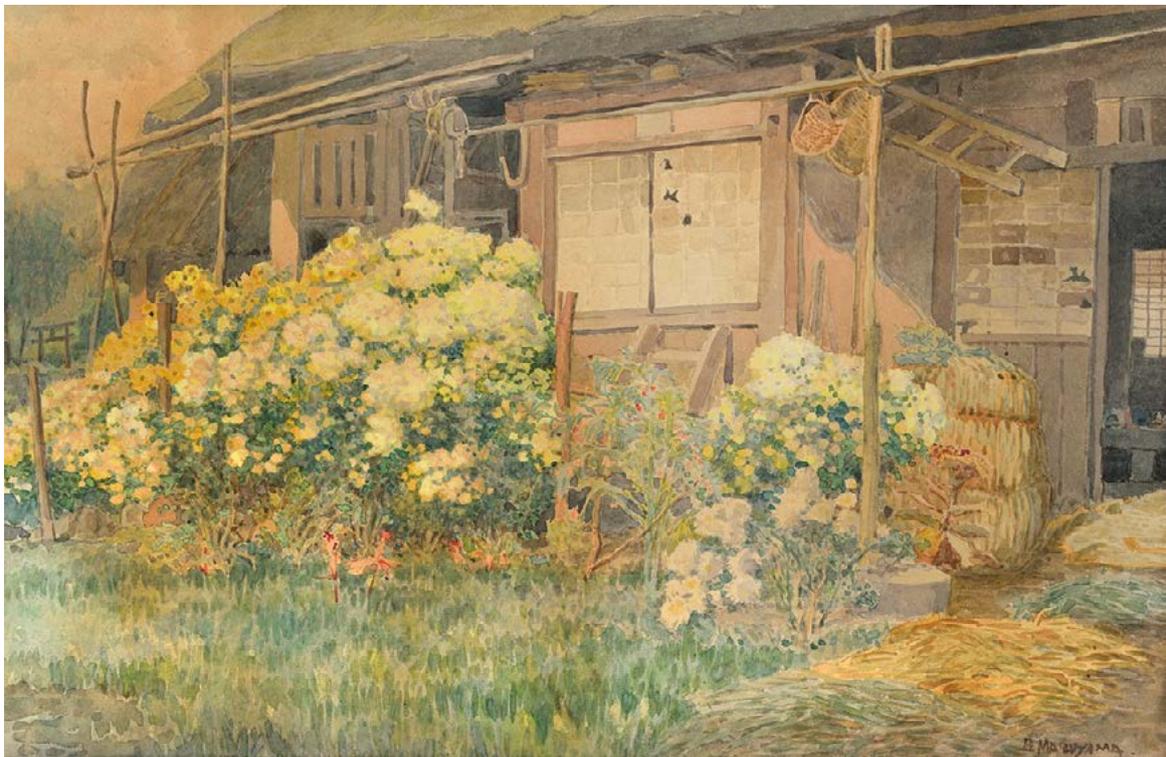
寄贈の経緯及び当館出展履歴は、1と同じ。

No.	作者	作品名	制作年	技法、材質	サイズ
3	丸山晚霞	千葉	1900年以前	水彩、紙	31.0*56.8



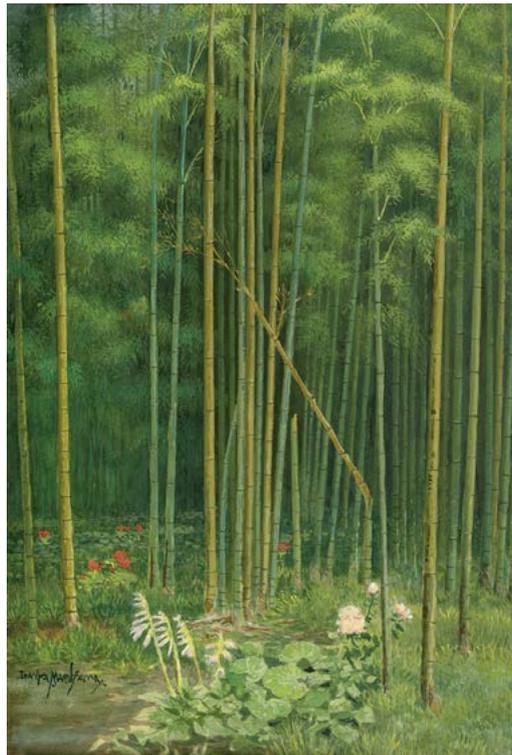
令和7年度企画展「明治の彩り展」出展作品。所蔵の田中氏より会期終了後、寄贈の申し出を受ける。田中コレクションはすべて海外の市場にあった作品を購入し、日本に里帰りしたもの。サインにはまだ○晩がなく、取材地のCHIBAが書かれていることなど、渡米前の作品の特徴と一致している。渡米時の記録にはCHIBAという作品は見当たらないため、横浜で土産絵をして販売されたものかも知れない。

No.	作者	作品名	制作年	技法、材質	サイズ
4	丸山晚霞	菊と農家	1900年以前	水彩、紙	32.7*49.0



寄贈経緯は3に同じ。農家の軒先に咲く、おそらく菊を描いたもの。

No.	作者	作品名	制作年	技法、材質	サイズ
5	丸山晚霞	竹林	1900年以前	水彩、紙	51.7*35.0



寄贈経緯は3に同じ。竹林は盟友・河合新蔵の得意とする画題であったが、丸山晚霞も見事な表現をしている。手前に置かれた露の葉や緑の巧みな色彩表現は、丸山晚霞の特徴をよく表している。裏に Price30 とあり販売価格 30 ドルを意味するが、取消線があり 25 と修正されていることから、実売は 25 ドルだったと推定される。渡米時のカタログ内のどの作品かは判別できなかった。

No.	作者	作品名	制作年	技法、材質	サイズ
6	丸山晚霞	松島	大正期か	紙本着彩	本紙 138*34



仙台在住の寄贈者の母親の旧蔵。

No.	作者	作品名	制作年	技法、材質	サイズ
7	吉田 博	雨の街道	不詳	水彩、紙	27.2*38.0



寄贈経緯は3に同じ。灼けが著しく、褪色も進んでいる状態であるが、吉田の初期作品として資料価値は高い。

No.	作者	作品名	制作年	技法、材質	サイズ
8	吉田 博	橋と竹林	1899 年以前	水彩、紙	33.3*50.5



寄贈経緯は3に同じ。本作は、1900年にボストン美術館で開催された中川八郎との二人展に出展され売却されたもの。裏に043の番号があり、これが当時の販売カタログと一致。英題では Bridge in Bamboo Grove, Near Tokyo. 20ドルで売却となっている。

No.	作者	作品名	制作年	技法、材質	サイズ
9	大下藤次郎	風景	不詳	水彩、紙	14.3*20.6



寄贈経緯は3に同じ。小品ながら樹木のかすれた感じの表現など、イギリスの水彩画家、特にアルフレッド・パーソンズからの影響が垣間見える。

No.	作者	作品名	制作年	技法、材質	サイズ
10	中川八郎	漁港風景	1899年以前	水彩、紙	26.8*38.0



寄贈経緯は3に同じ。本作は、1899年渡米時に日本から携行され、1901年、プロヴィデンスで開催された日本人画家6人展の際に売却されたものと思われる。中川八郎は愛媛出身で、こよなく瀬戸内海の風景を描いており、本作は小豆島ではないかと推測される。裏面には Providence art club の所蔵を示すステッカーが貼られている。

No.	作者	作品名	制作年	技法、材質	サイズ
11	小澤一郎	風景	1904年	水彩、紙	39.0*56.3



小澤の父は、幕末に来日した報道画家、チャールズ・ワーグマンである。日本人女性の小澤カネの間に生まれた一郎は、別名ワーグマン・Jrとも言われる。父親から手ほどきを受け、日本各地の風景を淡いタッチの水彩で見事に表現したが、画壇に属さずもっぱら土産絵を描いていたため、美術史の中では忘却された存在。梅野記念絵画館にも一点《潮来》がある。

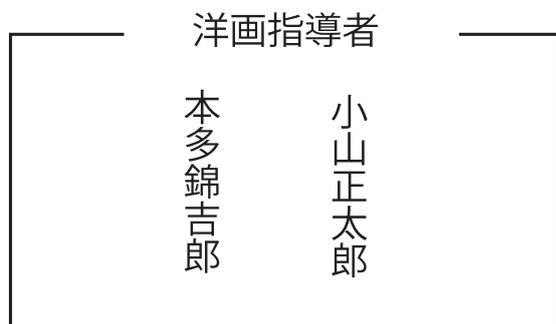
丸山晚霞記念館 作品取得基準

(2) 丸山晚霞略年譜と作風の変遷

	1867年（慶応3）	信濃国小県郡祢津西町生まれ	
修業期	1888年（明治21）	上京し、「彰技堂」で本多錦吉郎に師事	習作の域を出ない。資料価値として重要
最盛期 1894年～1910年	1895年（明治28）	沼田付近で吉田博と出会う	水彩画に開眼。吉田博の影響が大きく、風景を忠実に画面に表現しようとする。
	1898年（明治31）	吉田博と「日本アルプス写生旅行」を行う	「信州の空気が画面に漂っていて、見る私たちをして浅間山の山麓に引きずられていくような力強さを感じた」三宅克己評
	1900年（明治33）	盟友4人と渡米、現地で吉田博らと合流。3都市で「日本人水彩画家6人展」を開催し、大成功を収める。約100点を販売。	渡米前に、三宅克己と知り合う。海外の影響を受けた三宅克己の作風に影響を受ける。
	1901年（明治34）	アメリカから渡欧し、欧州を巡遊し帰国	
	1902年（明治35）	太平洋画会（現太平洋美術会）の創立に参加。小諸義塾図画教師に着任	欧州の田園画家のライフスタイルに憧れ、田園風景、農村風景に秀作が見られる。島崎藤村らと交友。文学にも影響を与える。
	1905年（明治38）	小諸義塾を辞し上京。太平洋画会研究所の水彩画科教師となる。その後大下藤次郎らと水彩画講習所開設。	水彩画全盛期を迎え、著書も手がける。「和装水彩」と称した、掛け軸を精力的に描く。秀品も見られる。
円熟期 1911年～1920年頃	1911年（明治44）	2度目の渡欧。欧州各地で写生を行う	ウイリアム・ターナーに影響を受けて帰国。画風が変化する。
	1912年（明治45・大正元）	帰国、帝国ホテルで滞欧作の展覧会を開催	欧州風景は現存多数。秀品は3割程度か。
	1913年（大正2）	日本水彩画会創立	後進の指導や水彩画の普及に奔走する。掛け軸などを多作。現存多数。作風は平凡。
晩年	1923年（大正12）	関東大震災救済義援金を募るため、中国、東南アジアで作品を頒布	このころから、指導者として多忙を極め、作品は衰える
最晩年	1936年（昭和11）	吉田博らと日本山岳画協会の創立に参加。郷里祢津村にアトリエ「羽衣荘」を新築	
	1942年（昭和17）	死去。享年76。日本水彩画会から「水彩画家丸山晚霞」（遺稿集）が刊行	

丸山晚霞記念館 作品取得基準

(1) 丸山晚霞および関連作家

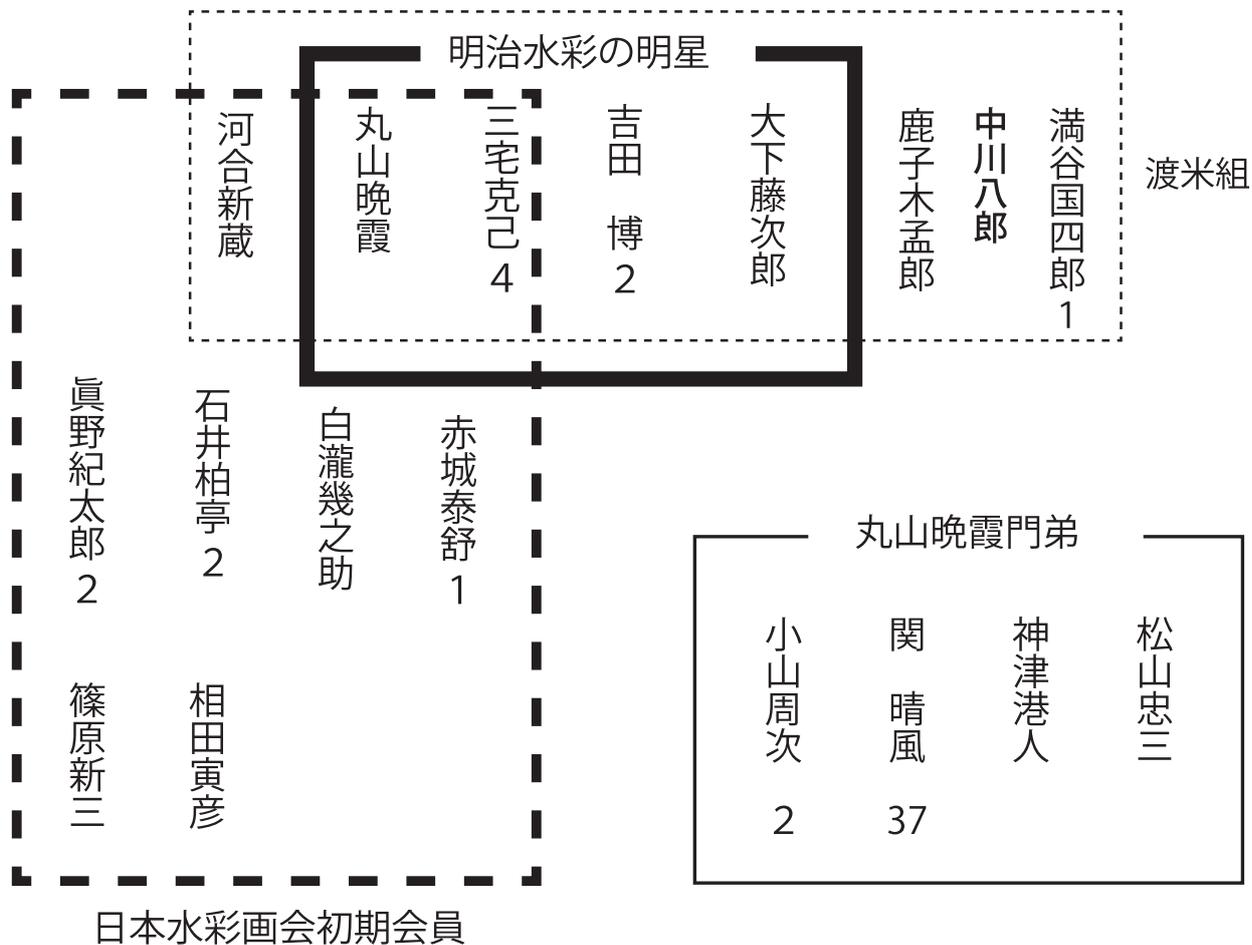


丸山晚霞重要作品数（種類別全点数）

日本アルプス写生旅行デッサン 40 (499)

1894年～1912年の水彩画 55 (95)

参考：掛け軸 15、屏風 4



明治の水彩画を丸山晚霞を中心に体系的に収集する

- 1 丸山晚霞の最盛期とされる 1894年～1910年までの水彩画
- 2 同時期の水彩の明星と呼ばれた作家 特に三宅克己、吉田博
- 3 日本水彩画会初期会員 及び太平洋画会初期会員
- 4 近代日本水彩画史に重要な足跡を残した作家など